

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 科学研究推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,400 千円 (前年度予算額： 7,400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,400	0	0	0	0	0	7,400	0	0
要求額	7,400	0	0	0	0	0	7,400	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」である（文部科学省所管）。
- ・競争的資金制度は、競争的な研究環境を形成し、研究者が多様で独創的な研究開発に継続的、発展的に取り組む上で基幹的な研究資金制度で、科学研究費補助金のほかに戦略的創造研究推進事業や研究成果展開事業などがある。
- ・研究機関間の競争を促し、研究の質を高めることを目的として、獲得した研究者の研究開発環境の改善や研究機関全体の機能向上に活用する費用として、間接経費（直接経費の30%）が措置されている。
- ・民間団体等においても、情報科学、芸術分野の研究を促進し、学術振興に寄与することを目的として研究助成事業を行っている。

(2) 事業内容

- ・競争的資金の間接経費は、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、研究代表者及び研究分担者の研究環境の改善や研究機関全体の機能の向上に活用するものである。
- ・民間団体等が行っている研究助成事業に応募し、より高度な研究環境を整える。

(3) 県負担・補助率の考え方

諸収入（10/10）

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,700	講師謝礼、研究補助謝礼
旅費	1,000	業務旅費
需用費	1,700	研究用消耗品購入費
役務費	40	郵送費
委託料	600	設営等業務委託
使用料及び 賃借料	80	研究発表会場使用料
備品購入費	2,200	研究用備品購入費
負担金	80	各種会議参加費
合計	7,400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針

(平成13年4月20日付け競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ)

(2) 後年度の財政負担

外部資金による研究活動を積極的に取り組むことにより、本学の教育研究の質の維持・向上を推進する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

国の「科学研究費補助金」などの競争的資金の交付を受け、研究機関の研究環境の改善や、研究機関全体の機能向上に活用します。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H24)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①実施件数	7	2	12	8	—	17%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ・学術研究助成金基金助成金 基盤研究C 1件 ・科学研究費補助金 基盤研究A 1件 <p>研究環境の改善、機能向上を図る上で有効な資金であり、産業・社会・文化の向上に寄与する本学の研究を維持・向上させていく。</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p style="color: red;">令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	研究者の自由な発想に基づいて行われる競争的資金制度の研究は、独創的・先駆的な研究を発展させる上で事業の必要性が高い。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	毎年、「科学研究費補助金」などの競争的資金として採択された研究を複数実施しており、事業効果が表れている。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 1	効果的な研究環境整備を推進している。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 科学技術を推進する人材育成のためには、競争的資金によって、独創性を発揮できる人材を多数育成することが何よりも発展に役立ち、ひいては、人類の未来に貢献できる研究活動の基盤となるので、さらなる支援を求める必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 研究環境の改善、機能向上を図るうえで有効な資金であるので、産業・社会・文化の向上に寄与するシステムの開発とその一般化を目指し、国へ補助金を申請する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	